

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>野菜の作付面積の変化の正答率は78%である。</p> <p>高原の土地利用についての正答率は63%である。誤答例としては、地形と土地利用の様子を混同し、地形の様子を選んだものが多い。</p>	
<p>3. 気候グラフの読み取り</p> <p>一年中暖かい地方と寒い地方の気候グラフの読み取りの正答率は、それぞれ74%、78%である。</p> <p>雪の多い地方の正答率は58%である。誤答の多くは、気温だけで判断し、寒い地方の気候を選んでいる。</p> <p>暖かく雨の多い地方の正答率は、61%である。冬わりあい暖かく雨の多い地方と混同して答えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 太平洋側と日本海側の気候のちがいを、気候グラフから読み取らせる。気候グラフは、4年になって出てくるグラフであるから適切な指導をしなければならない。 ○ 気候グラフは、気温と降水量を同じ図に表しているの、縦軸と横軸の目盛りと単位に注目させる。次に、気温・降水量のグラフの形を読み取らせ、特色ある地域と気候グラフを結びつけて考える習慣を身につけさせたい。 ○ 日本各地の気候の特色を、人々のくらしや産業と関連づけてとらえさせることは、大切なことである。
<p>観点②（資料活用能力）について</p> <p>観点②の平均正答率は64%である。小問によっては46～78%の差が見られる。</p> <p>4年生の地図指導にあたっては、方位・縮尺・記号等を多くの機会をとらえて、くりかえし指導する必要がある。</p> <p>我が国の特色ある地域の指導にあたっては、気候や地形の条件を、自分たちの市（町・村）と比較したり、生活の様子を写真・スライド・地図・グラフなどの資料を活用して理解させる。</p> <p>4年生の学習では、各種の資料が多く活用されるが、一つの社会事象を調べるのに、二つ以上の資料を関連づけて読み取らせる訓練も必要である。</p> <p>資料の読み取りについては、特に個別指導を徹底して行うようにする。</p>	
観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>③ 社会的思考・判断</p> <p>1. 公共施設ができるまでの経過とその利用についての判断力</p> <p>市の計画的な建設事業についての正答率</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共施設ができるまでの経過については、計画にしたがって公共施設ができあがっていくことを、新しくできた公民館などを例にし